

令和6年度第1回大野城市芸術文化振興審議会会議録

日 時：令和6年7月3日（水）13：30～15：30

場 所：市役所新館3階 321 会議室

出席者：委 員 安河内俊明会長、長津結一郎副会長、糸山裕子委員
中嶋真理子委員、永野薫子委員、藤田秀之委員
齋藤廣樹委員

欠 席 藤井浩彦委員、小林京子委員

事務局 日野地域創造部長、岩下コミュニティ文化課長、
荒牧コミュニティ文化課芸術文化担当係長、辰野

資 料 【資料1】大野城市芸術文化振興プラン実施スケジュール（案）
【資料2】大野城市芸術文化振興プラン令和6年度スケジュール（案）
【資料3】令和6年度における主な取組
【資料3－1】大野城市芸術文化情報サイト「ツナグト」の活用について
【補足資料】大野城市芸術文化振興プラン 基本施策の取組

- 1 開会
- 2 委員紹介
- 3 会長・副会長選出
中嶋委員より会長に安河内委員を推薦。
糸山委員より副会長に長津委員を推薦。
拍手多数により承認。
- 4 審議事項① 大野城市芸術文化振興プラン実施スケジュール
事務局
事務局の説明の後、質疑。
⇒質疑、意見なし

審議事項②芸術文化情報発信サイトに関する取組

事務局

サイトのデモンストレーション実施。

事務局の説明の後、質疑。

副会長

きれいなサイトで見やすそうで良かったと思った。これ自体の宣伝はどのように行うのか。

事務局

市内小中学校の児童、生徒、一人一人にチラシを配布し、家族と一緒に見てもらうようにアナウンスすることを教育委員会に相談している。また、各公民館への配架、回覧板での周知、ホームページ、SNS、まどかぴあやふるさと館へのチラシの配架を検討している。本サイトは、大野城市で活動可能であれば、登録要件に居住は問わないため、可能であれば、近隣

の文化施設にも配架したいと考えている。効果的なものが見つければ随時行っていきたい。

副会長

市民でなければ登録できないということでもなく、その間口の広さを考えると、福岡市でもこのようなサイトはない。大野城市ではこのような取組があるということを、近隣の自治体の人にも知ってもらえるような周知が重要になってくると思う。公共施設だけでなく、民間のギャラリーや演劇の稽古で使用される場所など様々なところに情報が行き届くと、今度まどかぴあで何かやってみよう、と考える人も出てくるかもしれない。そのような展開も期待できるのではないかと感じた。

もう一点、活動場所のページに投稿が集まった場合、一般的なサイトであると現在登録している公共施設が下に降りて行ってしまうが本サイトではどうか。

事務局

管理側で順番は変更できる。情報が多く集まると、様々な情報を一度に見ることができるため、民間の施設と公共施設が混在するように表示したいと考えているが、どのような表示方法が効果的かについて、お知恵を頂戴したい。

会長

市内には、公民館など芸術文化活動を行っている人たちはたくさんいるがそれらに関する情報はこの中に出ないのか。公民館やコミュニティセンターは年間を通して、事業を行っているが、そういう情報を広く周知するというのもプランの大事な目的ではないか。盛んに芸術文化活動を行っている公民館を見て、他の公民館が活動を行うなど自然に盛り上がっていくきっかけづくりにもなると良いのではないか。

事務局

活動場所というところで、公民館も芸術文化活動をされている方がいらっしゃる、いわゆる活動の場所になるため、活動場所として公民館の情報を掲載することとしている。公民館で実際に活動されている団体についてはアーティストとして登録していただくように広報し、働きかけていく。公民館が把握して登録することは現実的に難しい。

会長

そのような意図であれば、公民館等で活動されている団体等に、サイトで告知ができることを知ってもらわなければいけない。

事務局

ご指摘のとおりである。市内での広報も大切ではあるが、芸術文化に特化したサイトを行政が作るということはあまりない事例であると考えられるため、各マスコミにも情報を流すことで、大野城市の取組を外から周知してもらえるような情報発信も行っていきたい。

委員

市の広報紙にも掲載されるのか。

事務局

コンテンツの紹介と共に掲載することとしている。

委員

市の広報に掲載するとチケットが売れる。忙しい人でも、必要な情報は掲載されているため、読まれる可能性が高い。特集ページを組むなどして広報してほしい。

会長

サイトを面白いと思ってもらわなければアクセスしてくれない。アクセスしても面白くないと思われるとページを閉じてしまうため、何か活動している人たちが、アクセスして良かった、チャンスをもたらった、活動する間口が広がったという思いを実感してもらえれば自然とつながっていくであろう。これらも含めて少しずつブラッシュアップしていったほしい。

事務局

登録された人が良かったと思えるような効果が生まれるよう、トライアンドエラーで積み重ね、そのような環境を作れるようにサイトを動かしていかなければならないと考えている。

委員

インスタグラムやフェイスブックなど、アーティストがこのサイトを紹介することで、拡散されていく。アーティストにもアピールしていただくとさらに広がるのではないかな。

事務局

登録していただくこと、そして協力してもらうことが大切であるため、そのような働きかけをしていきたい。

委員

文化連盟は高齢の人が多いため、利用、周知が難しいと感じている。紙面でのお知らせも必要だと思う。

事務局

操作が不安だという声も聞いている。事務局として、フォローしながら進めたい。

委員

スマートフォンで簡単に見ることができたらよい。

委員

スマートフォンでも見やすいサイトになると、年配の方も見ることもできるのではないかな。時間があるときに試すことができると促すと、年配の方も扱ってみるのではないかな。年配層も大事にしてほしい。

委員

その際に大事なことは、字の大きさなど見た目である。小さすぎる字であれば、見る気がおきなくなってしまう。

委員

スマートフォンではどう見えるのか考えてほしい。友達が掲載されているとさらに広がるきっかけになり、親しんでもらえるものになる。文化連盟

は特に横のつながりを大切にされているであろうから、年配の方でもサイトに親しめる方法を考えてほしい。

事務局

サイト自体は、スマートフォンにも対応できるものになっているが、見やすさなどは運用する中で、意見を聞きながら、必要に応じて手を加えていきたい。

委員

活動場所の詳細ページについて、地図のほかに活動場所名も掲載されるのか。

事務局

場所と地図と双方とも入力し、表示することができる。

委員

アーティスト情報というのは、アーティストバンクのことを言うのか。

事務局

そのとおりである。キーワードで検索もできるため、ジャンルで抽出することができる。学校などでゲストティーチャーを探す際や、習い事を見つける際など活用してほしい。

委員

営利団体の線引きはどうなっているのか。

事務局

スタジオ運営や習い事の先生など営利で行っている人もいる。そのあたりは線引きなく掲載する。料金を記載する項目も設けているため、講師料や月謝など入力いただくことも可能である。

審議事項②芸術文化を支える人材育成のためのアートマネジメント研究

事務局

事務局の説明の後、質疑。

委員

人材育成が一番難しいと感じている。全国公立文化施設協会の会議に出席したが、アートマネジメントできる人材がいらないというのは全国的に課題となっている。公共施設の職員も若い職員ばかりになっており、強制的に研修を受けている状況。アートマネジメント研究自体は細かく取組を進めていかないと、解決することは難しい。ただ、この取組は‘大野城市’が行うアートマネジメント人材育成ということであるため、人材を掘り起こしやすいのではないかと考えている。例えば、子育て中の方で、仕事をフルタイムで行うことは難しいが、自分の時間を使って社会やアート活動に関わりたいたいと思っているような人を探し出せるかが鍵である。はじめは市民レポーターから始めた方が、その次の活動に移るような展開が生まれるとよい。地域を愛する人は一定数いると考えられるため、この地域で活動してくれる人を探すことも、人材育成の可能性があると感じている。瀬戸内芸術祭も地元の方がたくさん携わっている。

会長

大野城の場合も、そのようなものでいいと思う。専門性の高いアートマネジメントを行うというよりも、アートが好きで、アートと社会をくっつけたり、アートを紹介したい等、何かしらに関わってみたいと考える人材を育成するとよいのではないか。まどかぴあは地域に特化したホールであることから、本取組に対し前向きな職員もいる。

委員

人材を見つけることが大切である。

会長

あまり専門性が高すぎると、関わってくれる人が少なくなるので、ある程度の線引きでよいのではないか。

委員

早良区のコミュニティセンターでは、コミュニティセンターでの事業のお手伝いを通して、ネットワークができています。ボランティアスタッフは知的好奇心が高く、仲間とつながりながら、活動をされ、指定管理側もボランティアスタッフのやってみたいことを可能な範囲でバックアップしています。そのようなやり取り、取組が功を奏し、ボランティアスタッフの活動が、継続され、スキルも向上しています。

会長

そのような人たちが地域の芸術文化を支える人材となるのではないか。活動を応援してくれる人を増やし、そのような人たちに学んでもらう機会となるとよい。

委員

そのような人が垣根を越えて、取組に参加するきっかけ欲しい。

副会長

市民の人たちで、アートに興味があって、何かちょっとしてみたいという人達を掘り起こしていくシステムとして進めていくことが良いのではないかということが、昨年度の研究の結果である。昨年度、他自治体のインタビューにおいて、レポーター同士のネットワークが構築されることで、仲間たちでイベントを実施したりといった展開がうまれているという話も聞いた。大野城でもゆくゆくは、このように展開していくとよい。地域的にもつながりが近いこと、サイトもでき、大野城市の取組が注目される機会でもあることから、少しでも興味のある人にとって、活動するきっかけと位置づけられるとよい。

全国公立文化施設協会の課題は糸山委員の発言のとおりであり、40代以降60代前の世代の職員がいない。理由は様々だが、賃金が安く選ばれない、指定管理制度が故に任期付きの職種で就職にためらう、NPOなど公立の文化施設ではない働き方が増えたことなどが影響している。そのように考えたときに、ファシリテーターはファシリテーターを育てること、レポーターはアートに関わってみたいという人材を掘り起こすことを目指してい

きたい。この取組についても、やってみて、次年度以降どのような制度設計が良いかというところまで一緒に話し合いながら進めていきたい。

審議事項②芸術文化の他分野への活用

事務局

事務局の説明の後、質疑。

副会長

まどかぴあの課題の検討について、まどかぴあが市に協力してほしい事項について協議とあるが、市がまどかぴあに協力してほしい課題を協議する場はないのか。まもなく、指定管理更新の時期であることも踏まえると、プランを進める中で、芸術文化の役割が大野城市の中で大きくなってきており、まどかぴあの在り方も拡大したり、期待が集まる状態になると思う。一方で、人員にも限りがあり、施設の管理等の業務も行う中で、指定管理の仕様を踏まえた上での課題の整理だと感じたが、いかがか。もう一点は、3つ目の事業の調査について、連携会議関係課への調査を行うとのことだが、一方向的になっていることが気になっている。プランができたころは、連携会議のメンバーに芸術文化の機会を保証し、理解してもらうことが、その後の様々な事業の円滑化につながったという手ごたえにもなったように思うが、その辺りはどう考えているか。

事務局

1点目について、連携会議の中でまどかぴあが課題と感じていることを話し合うことで、芸術文化と他分野との連携についてイメージできる機会となることも目的としている。一方的でなく、逆方向でのやりとりも必要ではあるが、一度に進めるのは難しいと感じたため、今回はこのような内容とした。指定管理の仕様書については、コミュニティ文化課で検討している。2点目については、連携会議においても、芸術文化の考え方等について説明する機会は作ろうと考えている。長津副会長に指摘いただいたとおり、調査にて集めた情報をどのように会議の中で扱っていくかということについては、きちんと形にできていないため、会議までに検討していきたい。

事務局

まどかぴあの指定管理については、別途進めているところである。プランの中で、まどかぴあが主体的に取り組むものが曖昧になっている。それぞれが、主体的に取り組む部分を、きちんと整理し仕様書に盛り込みたい。また、業務量や人件費を含めたところで、別途協議を進めている。

委員

指定管理制度について、福岡県も人材育成の取組を始めた。そのような講座にまどかぴあの職員を何人派遣したかなども評価のひとつとなると考えられる。指定管理は仕様書が肝になるため、仕様書を作成する際に、市が担う部分とまどかぴあが担う部分を定め、少し高めの目標を示すべきである。

審議事項②芸術文化の考え方の普及や芸術文化活動の周知

事務局

事務局の説明の後、質疑。

⇒質疑、意見なし

会長

サイトの活用等について、本日とても良い意見が出された。事務局は本日の意見をもとに検討して進めてほしい。

5 閉会